分野別研究組織成果報告（2021 年度）

新興国企業発イノベーションの本質
-異時点比較分析による史的模索と理論構築-

Firm innovation capability in emerging markets: theory building from historic turn through an intertemporal comparative analysis

李　澤建（Zejian LI）

１，本研究の概要

中国シフトで加速する自動車の電動化がどのような破壊性と創造性を伴うものなのか。その影響波及のプロセスは如何なる企業行動の集積によって可能になったのか。可能性があるとしたら、その創生・波及メカニズムを我々の持つ既存の観察方法がどこまで理解できるのか？進行中のイノベーションに対して外部から有効な観察データも十分に得られないまま、全豹一斑でも新技術・新市場（IoT や MaaS 等）によって引き起こされる、企業内外に及ぶ構造変化に対する理解をいっそう深めなければならない時期は来ている。だが、問題はその「一斑」をどう確実に捉えるのか。そこで、本研究ではその「一斑」を諸企業の価値創造連鎖の起点に当たる研究開発活動に据えたい。

本研究の主軸は同一の調査枠組みに基づき、自動車企業の研究開発拠点に対する定点観測＝インタビュー調査を実施する点にある。それにより、第１に、企業内部に日々推進されている価値創造の組織ルーチンから観察できる断面により，企業の大小・成熟を超えた経時的に一種の創生メカニズムとして抽出できるものをもって、異（2）時点間における経営進化の質的・量的実態の把握とその要因の考察が可能となる。第 2 に、日本・欧州と中国などの電動化の最前線において代表企業の開発拠点を対象にすることにより、地域や産業・企業を超えた電動化競争が促す構造変化に共通の要因は何か、加えて企業の戦略的対応の方向性に差異が認められるとすれば、それは何であろうか、なぜそうした差異が生じたのかが明らかになる。そこで、本研究が目指しているのは、進行中の事実を体系的に整理するような記述的な研究ではなく、百年に一度のパラダイムシフトを直面する際、企業の持続成長に必要な知識共有・継承に関する分析的かつ応用可能な理論を、異（2）時点間の比較分析による構築である。

したがって、研究期間中に、Ⅰ．同一の調査項目に基づき、インタビュー調査を実施し、個々の開発拠点の異（2）時点間における進化の内実とその要因を把握し、開発拠点ごとのデータベースを作成する。Ⅱ．拠点開発責任者に対する聞き取り調査を実施し、断面として切り取った異（2）時点間の変化をつなぐ進化プロセスの実態とその内的・外的要因をオーラルヒストリー解析によっていっそう正確的に把握する。Ⅲ．上記ⅠとⅡで明らかになった個々の要素を再構成して（要素によっては退化もあり得る）、拠点ごとの総合的な価値創造の能力進化の方向と程度を検出する。Ⅳ．上記で解明した諸点を総括し、第 1 に、電動化競争に際して、地域・産業・企業・個々の拠点を越えた企業の価

値創造活動に共通した進化のメカニズムはあるか否か、あるとすればその要因は何かを分析する。ないとすれば、第 2 に、地域ごとあるいは地域の中の国ごと、さらには特有の進化のパターンがあるのか否か、あるとすれば各パターンの形成要因は何かを明らかにする。第 3 に、拠点ごとのケースを対象にパターン化し、それぞれの長所と短所を考察し、応用可能な理論構築を試みる。

２，研究遂行進捗と成果報告

2021 年度に、在中企業の企業行動に関する調査で時点①断面像の採集が終わり、関連成果は下記通り、学会報告*を経て、現在原稿執筆**を進めている。

*李澤建「電動化競争と成長戦略：戦略と市場の共進化をいかにマネジメントするのか？」国際ビジネス研究学会第 28 回全国大会、自由論題（2021 年 11 月 7 日）。

**李澤建（2022）「日中自動車産業の成長要因と相互波及」高原明生・園田茂人・丸川知雄・川島真編『21 世紀の日中関係（仮）』東京大学出版会

2022 年 3 月 21 日：脱稿・提出

2022 年 4 月 01 日：修正原稿提出

2022 年 5 月 31 日：編者修正指示対応済み

現時点：入稿済み、校正待ち